

事業番号	15 06 02	事業改善シート（令和7年度実施事業分）		☐ 当初要求	☐ 当初予算案	☐ 補正予算案	☒ 点検
事業名	未来を切り拓く学力の育成事業費	部局	教育委員会事務局	課・室	学びの改革支援課		
		実施期間	H30 ～	E-mail	kyogaku @ pref.nagano.lg.jp		

1 現状と課題

- ・多様な特性等により学びづらさを抱える児童生徒が増えており、多様な学びや学びの場の保障が必要
- ・探究的な学びの一層の充実が求められる中、探究学習の様相は多様であるため、具体的な実践方法に戸惑いがみられる。
- ・変化の激しい時代において、学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、主体性を発揮しながら、個別最適な学び、協働的な学びにより、教職生涯を通じて学び続けるといった、新たな教師の学びを実現していく必要性がある。

2 事業目的

- ・一人の子どもも取り残されない「多様性を包み込む」学びの環境をつくる
- ・探究を中核とした学びを充実し、一人ひとりが自ら考え、他者と協働する学校づくりを支援する
- ・教職生涯を通じて学び続ける新たな教師の学びを実現する

3 事業目的を達成するための取組

①学びの改革、個別最適な学びの推進

- ・探究を中核とした学びの充実、個別最適な学びの推進、多様な学びの場の創造を図るため、実践研究に取り組む学校に対するアドバイザー派遣や先進的な取組を行う県内外の学校への視察研修等を実施するとともに、成果を発信していくためのフォーラムを開催
- ・1人1台端末の発展的な活用を拡げるため、先進校（DXリーディング校）の授業公開等を実施
- ・特定分野に特異な才能のある児童生徒とチューターを結び付け、オンライン等で支援を行う。また、本事業に参加する児童生徒について、クラウド等を活用して学校とチューターが情報共有する体制を構築
- ・児童生徒が自ら学び方等を選択でき、自己実現できる学校「ウェルビーイング実践校TOCO-TON（トコトン）」について、有識者派遣等により支援

②教職員の資質向上

- ・初任者から管理職まで必要な資質能力を育成するため、キャリアステージに応じた教職員研修を実施
- ・未来の学校を創る校長等のマネジメント力を向上するための研修を実施
- ・長野県の次代の教育を担う教員が資質・能力を高めるため、先進的な取組を行う学校への視察研修の支援や私学・民間等と連携した研修プログラムの開発を実施

③子ども達の心身の健やかな成長

- ・校園種を越えて学び合い質の高い幼児教育の実現を推進するため、信州幼児教育支援センターによるフィールド研修を実施
- ・保育者に必要な資質能力を育成するため、キャリアステージに応じた研修を計画実施
- ・園・小接続カリキュラム（理論編・実践編）に基づいた研修の実施
- ・道徳教育の一層の充実を図るため、有識者等による道徳教育推進委員会を設置し、豊かな心を育むフォーラム等の実施

4 成果指標

（推移の凡例 ↗：改善 ↘：悪化 →：変化なし ―：数値なし）

No.	指標名	単位	R5年度	R6年度		R7年度		R7年度 目標値	達成 状況	目標値設定理由
			実績	実績	推移	実績	推移			
①	学びの改革を普及するための フォーラム参加者数	人	1,379	1,527	↗	732	↘	1,450	未達成	先進的な学びの改革に取り組む小中学校の成果を横展開する ため、フォーラム参加者数を増加させることを目標値として設定
②	研修参加者の研修講座のふりか えり「講座のねらいを達成」	%	53	50	↘	43	↘	60	未達成	研修に参加した教職員の自己評価（「講座のねらいを達成し た」とする者）が一定水準を上回るよう6割を目標として設定
③	信州幼児教育支援センターによ る各研修への参加者数	人	2,027	2,013	↘	1,921	↘	2,000	未達成	令和4年度に拡充した研修を継続し、引き続き同規模の参加 者を目標として設定

5 本事業が貢献する総合5か年計画の施策分野と達成目標

No.	施策分野（施策の総合的展開名）	達成目標 （☆印が付いているものは主要目標）	単位	直近3か年の状況						目標	
				年／年度	数値	年／年度	数値	年／年度	数値	年／年度	数値
5-1①	一人ひとりが自分にとっての幸せを実現できる学びの推進	幼保小合同研修会の実施率	%	2023 (R5)	45.3	2024 (R6)	47.0	2025 (R7)	49.1	2027 (R9)	56.6
5-1①	一人ひとりが自分にとっての幸せを実現できる学びの推進	「学校へ行くのが楽しい」と答える児童生徒(小6、中3)の割合	%	2023 (R5)	82.4	2024 (R6)	84.5	2025 (R7)	83.4	2027 (R9)	83.7
5-2①	一人の子どもも取り残されない「多様性を包み込む」学びの環境の創出	「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」と答える児童生徒(小6、中3)の割合	%	2023 (R5)	77.4	2024 (R6)	79.0	2025 (R7)	78.2	2027 (R9)	76.5
5-2①	一人の子どもも取り残されない「多様性を包み込む」学びの環境の創出	☆「授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間になっていた」と答える児童生徒(小6、中3)の割合	%	2023 (R5)	84.2	2024 (R6)	81.9	2025 (R7)	80.8	2027 (R9)	81.1

6 事業コスト

(単位：千円、人)

区分	予算額					決算額	職員数
	前年度繰越	当初予算	補正予算等	合計 (予算現額)	うち一般財源		
R7年度	0	136,999	0	136,999	104,202	87,034	8.0
R6年度	0	119,938	659	120,597	97,229	104,079	8.0
R5年度	0	112,391	1,524	113,915	94,819	99,296	8.0

事業番号	15 06 02	事業改善シート（令和 7 年度実施事業分）	☐ 当初要求	☐ 当初予算案	☐ 補正予算案	☒ 点検
事業名	未来を切り拓く学力の育成事業費		部局	教育委員会事務局	課・室	学びの改革支援課

7 主な取組実績と成果

①学びの改革、個別最適な学びの推進

- ・学びの改革リーディング校支援事業では、先進的・先端的な学びに取組む実践校を「学びの改革リーディング校」に指定し、「学びの改革」の取組を支援した。また、学びの充実あと押し事業では、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた授業改革を支援し、成果の普及に努めた。
- ・学びの改革リーディング校、学びの充実あと押し校への支援として、改革アドバイザーの派遣や県外視察への支援を行った。また、学びの改革リーディング校では、学校公開を実施し、自校の取組を近隣校へ広げる機会とした。
- ・1月に開催したオンライン研修会（信州まなびチャンネル！2026初回拡大版）では、学びの充実あと押し校が全県に向け取組の成果を発表した。事後アンケートでは、「自校の学びの改革に生かすことのできる研修となったか」の問いに対し、すべてが肯定的な回答であり、8割以上が「新たな知識や観点をもつことができた」と回答した。
- ・学びの改革ミニフォーラムをオンラインで2回開催し、有識者による講演や学校の取組発表を行った。県内の園小中高等学校の教職員からは高い評価を得ており、研修会の記録動画を校内研修に利用したいという希望は、延べ214校あった。また、事後アンケートでは、「自校の学びの改革に生かすことのできる研修となったか」の問いに対し、2回とも肯定的な回答が95%超であった。
- ・特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援推進事業において、「学校」と「学校外の学びの場」をつなぐプログラム（Beyond School）を開発・実施し、関係機関と連携した支援体制を構築した。学校外での探究的な学びと教育課程との接続に向けた知見を得るとともに、チューターによる伴走支援や大学生・大学院生等の参画の有効性を確認し、今後の支援の方向性を具体化することができた。
- ・県内12市町村にウェルビーイング実践校TOCO-TONを指定し、担当指導主事（10名）による学校訪問や講師を招聘した研修会、先進校視察等を通じて、実践校での子ども中心の学校づくりが進展した（学校訪問一人平均160回、研修会一市町村平均30回）。また、学校の仕組み改革をテーマとした研修会等を5回開催し、約650名が参加した。教職員や関係者が学校改革の必要性や具体的な進め方について理解を深める機会となったほか、阿部知事も参加するスタートアップイベントの開催により、約200名と改革の必要性・可能性を共有した。さらに、SNS等で230回の情報発信を行い、子ども中心の学校づくりに向けた機運の醸成につなげた。

②教職員の資質向上

- ・初任者から管理職まで、必要な資質能力を育成するため、キャリアステージに応じた研修を実施した。
- ・総合教育センターにおいて、320講座を開設し、延べ10,797人の受講があった。希望研修講座の充足率は、80.9%であった。受講者アンケートでは、「講座のねらいを受けて、ご自身が立てた目標は達成できましたか」という設問に大して、「達成できた」・「概ね達成できた」という肯定的回答の割合が97.9%であった。
- ・全県各地の郡市校長会より推薦されたミドルリーダー22名が受講し、総合教育センターでの参集型研修（2回）オンライン研修（2回）県内外の先進校視察（1回）及びグループミーティング（8回）を行った。研修を総括しての受講者の満足度は「とても満足」90%、「満足」10%であった。

③子ども達の心身の健やかな成長

- ・園種・校種を越えて保育現場から学び合うフィールド研修を10回開催し、延べ90人がそれぞれ4回の研修に参加した。研修は、保育者の参加しやすさと学びの充実を図るため、オンライン研修と実地研修を組み合わせ、参加者が自己課題をもとに実践や討議を重ねる往還型・探究型の形式で実施した。今年度は園小接続実践校の応募がなかったこと等に伴い、開催会場数が現象（5会場→4会場）し、総延べ人数は前年度を下回った。一方、提出物は日頃作成している資料を活用できるようにするなど、研修参加に伴う負担の軽減を図った。
- ・保育者のキャリアステージに応じた研修を5回開催し、延べ593人が参加した。保育者の要望に応じた研修とすることで、日頃感じている課題意識の解決に加え、幼児教育の質の向上につながる新たな知見を得る機会となった。
- ・園・小合同の研修会を2回開催し、延べ238人が参加した。園と小学校の職員が、「発達と学び」や「架け橋期の教育」の視点からつながることの重要性を確認するとともに、そのためにどのような機会を設けることができるかを考えることで、今後の取組に向けた具体的な見通しを持つことができた。

8 成果指標の達成状況に関する要因分析

指標 ①	学びの改革を普及するためのフォーラム参加者数	R6年度推移	↗	R7年度推移	↘	達成状況	未達成
今日の教育課題に対応した講師を招聘したミニフォーラム（オンライン）を2回（参加者のべ524名）、学びの改革に取り組む学校が成果を発表するフォーラム（オンライン）を1回（参加者208名）実施した。ミニフォーラムの実施回数が前年度と比べ少なかったことが、参加者数の減少につながった。							
指標 ②	研修参加者の研修講座のふりかえり「講座のねらいを達成」	R6年度推移	↘	R7年度推移	↘	達成状況	未達成
9,833件の回答があり、「自身の目標を達成できた」が42.6%、「自身の目標を概ね達成できた」が55.3%であった。前年度と比較し、「自身の目標を達成できた」のポイントは下降したが、「自身の目標を概ね達成できた」のポイントは上昇した。対話を重視した研修により、自身の課題や問いが明確になったり、「さらに考えたい」と感じたりしたことで、自己評価が慎重になった可能性が考えられる。							
指標 ③	信州幼児教育支援センターによる各研修への参加者数	R6年度推移	↘	R7年度推移	↘	達成状況	未達成
目標値に対し約96%の参加者であった。保育士等キャリアアップ研修修了者の増加が一因と考えられる。また、オンライン開催は、保育所や認定こども園において園外研修へ参加しにくい状況がある中で、参加のしやすさにつながっており、今後も継続する必要がある。研修等の実施により当センターの認知が高まり、アドバイザー派遣件数が増加し、より直接的な支援につながってきている。							

9 今後の事業の方向性

(1) 上記7、8及び県民の意見等を踏まえた課題
・学びの改革リーディング校支援事業、学びの充実あと押し事業により、学校改革・授業改革に取り組む学校が拡大した一方、各校の取組について横展開を図ることへの課題がある。 ・講座内容と受講者の必要感・課題（問い）・振り返りをより丁寧につなぎ、受講者が「学びの深まり」を実感できる研修の設計。 ・オンライン開催等で参加者の負担は減少しているが、保育時間の延長や職員配置の状況により、保育士が園外研修に参加しにくい状況が続いている。また、初任者研修や保育士等キャリアアップ研修のように参加が必要な研修は一定の参加者数を確保できる一方で、保育者が自発的に参加したいと感じる研修の充実には課題がある。さらに、園小接続の取組が地域により進捗に差があり、接続の視点を共有する体制が十分でない地域がある。
(2) 事業改善の方策
・学校改革や授業改革の取組について定期的な情報発信をする機会として、オンラインミニ研修（信州まなびチャンネル）を毎月最終水曜日の放課後の時間帯に開催し、学校改革の機運を広げていく。 ・受講者の振り返りを基に、講座内容を更改していく。全国教員研修プラットフォーム「Plant」を活用し、研修の充実を図る。 ・キャリアに応じた研修や園・小合同研修を継続するとともに、保育者が主体的に参加しやすい研修内容の充実を図る必要がある。各園が研修計画を作成する際に選択しやすいよう、フィールド研修の募集開始を年度当初とする。また、参加者のニーズに応じ、フィールド研修全10回のうち半数以上を、子どもの姿から直接学ぶことができる参集研修として位置付け、研修効果の向上を図る。

事業番号	15 06 02	細事業一覧（令和7年度実施事業分）			☐ 当初要求 ☐ 当初予算案 ☐ 補正予算案 ☒ 点検		
事業名	未来を切り拓く学力の育成事業費			部局	教育委員会事務局	課・室	学びの改革支援課

細事業 No.	細事業名		R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
1	先端的な学び支援事業		4,760 千円	4,683 千円	14,867 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	学びの充実あと押し事業	直接	・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて、授業改革に取り組む学校を支援（先進校視察、講師招聘、各種ツール等）した。 ・支援した学校の研究成果等を発信するオンライン研修を開催した。 オンライン研修を3回実施（参加者数のべ732名）、小中学校26校において実証研究		
2	GIGAスクール構想をけん引するDXリーディング校事業	直接	1人1台端末の効果的な実践例を横展開していくため、他校とのオンラインによる協働学習など、授業連携を積極的に行う学校をリーディング校に指定し、公開授業やSNSの活用により成果を発信した。 県内各市町村教育委員会から2箇所5校を指定し、10回の公開授業を実施		
3	特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援推進事業	直接	特定分野に特異な才能のある児童生徒とチューターを結び付け、オンライン等で支援を行う。また、本事業に参加する児童生徒について、クラウド等を活用して学校とチューターが情報共有する体制を構築する。 実証研究協力校 1自治体（4校）及び8学校の計12校が参加		
4	ウェルビーイング実践校TOCO-TON事業	直接	12市町村74校を「ウェルビーイング実践校TOCO-TON（トコトン）」として指定し、担当指導主事が日常的な学校訪問、先進校視察や研修会の実施、情報発信等を実施した。 全県研修会等6回（参加者数のべ1,224名）、担当指導主事によるミーティング25回		

細事業 No.	細事業名		R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
2	教職員研修事業費		34,662 千円	48,445 千円	34,598 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	教職員研修事業費	直接	・教職員の資質能力向上を図るため、初任者研修等の法定研修やキャリアに応じた各種研修を実施した。		
			・研修履歴システムを活用して、各研修の受講履歴を記録した。		
			初任者・5年経験者・10年経験者・20年以上経験者への資質能力向上研修を実施		
2	未来の学校を創る校長等マネジメント力向上事業	直接	校長20名、中核教員22名が主体的に特色ある学校づくりを行えるようにするため、マネジメント力の向上を図る研修を実施した。		
			校長研修：参集5回、オンライン2回 中核教員養成研修：参集2回、オンライン2回、県外視察1回、グループミーティング8回		

細事業 No.	細事業名	R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
3	総合教育センター研修費	15,079 千円	15,820 千円	16,482 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）	
1	総合教育センター研修費	直接	「個人と社会のウェルビーイングの実現」に向けて、教職員の資質能力向上を図る研修、専門的な知識・技能を習得する研修、教育課題を解決する力を育成する研修を行った。 希望研修、校長・教頭向け研修を実施	

細事業 No.	細事業名	R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
4	総合教育センター研究費	912 千円	603 千円	798 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）	
1	総合教育センター研究費	直接	本県教育の今日的課題やセンターの事業に関する喫緊の課題に対応するため、研究協力者及び研究協力校とともに、時代を先取りする研究調査を推進した。 調査研究事業5件	

細事業 No.	細事業名	R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
5	幼児教育振興事業費	5,601 千円	5,979 千円	6,687 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）	
1	信州幼児教育支援センターの運営	直接	幼稚園及び保育所等の園種を越えて幼児教育の質の向上を図るため、関係団体との連携、保育者研修の見直し等を実施する。 運営会議2回、専門部会6回	
2	保育者の資質能力の向上	直接 委託	質の高い幼児教育を実施するため、キャリアステージに応じた研修を実施。また、先進的な取組を行っている幼稚園、保育所及び認定こども園等でフィールド研修を委託する。（委託先：県内の幼児教育施設等） キャリアステージ研修5回、フィールド研修委託4件	
3	保育者の資質能力の向上	直接	園・小接続カリキュラム（理論編・実践編）に基づいた研修を実施する。 研修2回	
4	保護者・地域等の理解の促進（情報発信）	直接	保護者及び地域等へ理解を促進するため、情報誌による情報発信をする。 情報誌への掲載2回	

細事業 No.	細事業名	R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
6	道徳教育総合支援事業費	2,975 千円	3,521 千円	2,570 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）	
1	道徳教育総合支援事業	直接	道徳教育の質的転換を一層図るため、学習指導要領を踏まえた多様な指導方法の開発や指導力向上のための教員研修等を推進する。 教育フォーラム1回、研究協議会1回開催	

細事業 No.	細事業名		R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
7	文化部活動改革事業費		5,724 千円	8,792 千円	11,032 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	部活動指導員任用事業補助金	補助金	中学校文化部活動の専門的な指導による適正な運営と教員負担軽減のため、部活動指導員を任用する市町村を支援する。 31市町村74名		